

1学期のレポート

提出日: 2006年1月5日

氏名: 池上 真

【はじめに～この1学期を振り返って～】

今学期は、ギャロデット大学のELI(English Language Institute)において、英語、ASL、クロスカルチャーコミュニケーション、アメリカカルチャーを学んだ。12月上旬に行われた期末試験および学部の入学試験を無事にパスし、ひとまず順調なスタートを切ることができ、ホッとしている。来学期は、IIP(International Internship Program)を利用し、引き続き、ロースクール入学に向けて、更なる英語のスキルアップに努めたい。とりあえず、この1学期で学んだこと、感じたこと、考えたことを回想しつつ、クラスと生活面とに分けて、レポートをまとめてみることにしたい。

【クラス】

冒頭にも述べた通り、今学期は、午前には英語(月～金)、午後にはASL(月、水)、クロスカルチャーコミュニケーション(月、水)、アメリカカルチャー(火、木)のクラスがあった。

英語は、クラスが始まる前に行ったテストにより、4つの能力別クラスに別れて進められた。同時期に入学したクラスメイトのボキャブラリーの豊富さには学期が終わるまで圧倒されたものである。彼らは常にクラスにおいて積極的にディスカッションに参加するばかりか、自発的にプロジェクトを進めるなど、常に高い学習意欲を見せ、そんな彼らの姿勢に大変刺激を受けた。クラスは、主にリーディングとライティングを重要視したカリキュラムが組み、ボキャブラリーが不足している自分にとっては、要望に応えてくれたクラスだったと言える。

次に、ASLクラスの感想であるが、このクラスでは、指文字、数字の表現、顔の表情の重要性など、単にろうあ者のコミュニティに紛れるだけではなかなか気づき難い、ASLの基本的なルールを学ぶことが出来、価値あるクラスの一つだったと思う。

クロスカルチャーコミュニケーションにおいては、多くの国々の文化や宗教、人種などが交錯する、いわば、多重社会においてどのようにコミュニケーションをとればいいのか、ということ学んだ。それぞれの国の文化や行動様式の違いがクラスのディスカッションにおいても直接に反映され、なかなか興味深かったものである。

最後に、アメリカカルチャーであるが、アメリカ歴史における重要人物、アメリカの祝日、法の理念と現実のギャップなど、アメリカで生活する上で最低限知っておいたほうが良いと思われるものを学んだ。

英語以外のクラスは、同期生約20人という大人数で行われたため、クラスの進行はスロー気味だったが、その反面、一人ひとりの発言や態度から読み取られるその人のバックグラウ

ンドや価値観・感じ方について、時には共鳴したり、時には驚きの念を覚えたりして、学ぶこと限りなかった。おかげで、入学前と比べて、自分とはいかに異なる価値観の持ち主に対しても、まずはそれを受け入れ、そして尊重するというオープンマインドな姿勢を身につけることが出来たのではないかと思う。

【生活面】

インターナショナルの学生の多くが集まる寮に入り、彼らと寝食を共にした。一時は、カフェテリアでの食生活に満足できない、集団行動に拘束されにくく、自分だけの時間を作りやすい環境が欲しい、などの理由から、アパートに移り住みたいと考えたこともあったが、寮生活において、いかにして自分の空間を創造して行くかということを常に念頭に置きつつ、世界中のいろいろな国々から一堂に集まった学生と顔を合わせたり、ホームワークに励んだりしたことは、時間の管理などを習得するのに貴重な機会を与えてくれたと思っている。また、たとえ国や文化・価値観などが違って、共通の言語であるASLによる話し合いによって、寮生活上の問題の大部分が解決されるということを知り、共生の面白さを味わうことが出来た。

【その他】

また、課外活動として、ELISO(English Language Institute Students Organization)という、日本の大学でいうサークルみたいなグループがELIにもあり、その役員をやらせていただいた。任期は1年間で、あともう1学期が残っているが、今学期は、ホームカミング(Home Coming)、インターナショナル週間など、比較的大々的な行事が行われ、しばしば、そのための準備や役員会議に追われた。クラスもしばしばキャンセルとなるなど、予想外のスケジュールや先行きの不透明な日々が続く、将来に対する不安に駆られるときもあったが、それ以上に、これらの活動は、ELISOの役員も含め、英語の他のクラスの人や、自分よりも先にELIに入った人たちと触れ合う機会を多くもたらした。そして、様々な考えや価値観があることを発見し、それらを自分の中で消化し、理解していく過程において、人間関係をより一層深め、自分の居場所を徐々に見出すことが出来るようになった。すなわち、あるコミュニティの中に交じり、同士の存在を確認しつつ、自分自身もそのコミュニティの一員であるとの自覚が芽生え、学校生活に対する漠然とした不安が少しずつ和らいでいった。

【終わりに～来学期への抱負～】

来学期は、冒頭にも述べた通り、IIPを利用し、ロースクール入学に不可欠な英語力を習得するために、引き続き、英語のスキルアップに邁進していきたい。同時に、ELIのときの環境とは異なり、今度はアメリカの学生に交じってクラスを受けることになるが、ASLの技術はもちろん、積極的に自分の率直な意見や気持ちを述べるなど、少しずつ自分なりの色を出して行きたいと思っている。